

# 中泊はメバル、メバルは中泊。

青森県は高級魚ウスメバルの水揚げが日本一です。中泊町は県内の水揚げ量が1位で、昔からテンカラの愛称で親しまれてきました。刺し網漁業解禁期間中、漁り火が夜の漁港を灯し、漁師たちがメバルの網外しをする光景は、夏の風物詩ともなっています。町では、このメバルを活用したまちづくりを進めてきました。

メバルでまちおこしは、『中泊メバルの刺身と煮付け膳』、通称『中泊メバル膳』の提供開始が始まりでした。中泊メバル膳は、平成27年7月3日に始まって以来、63,131食(10月末現在)を売り上げ、大ヒットとなっています。



中泊メバル膳を食べた観光客をターゲットに、手軽にメバルの煮付けを味わえるお土産として、第2弾の「中泊メバルでチンノ」、通称「メバチンノ」が平成29年7月3日にデビューしました。3,518食(10月末現在)を販売しています。



## 中泊メバルせんべい完成！ 三村知事へ完成報告

10月15日(月)、濱館町長が三村知事を表敬訪問し、中泊メバルシリーズ第4弾「中泊メバルせんべい」の完成報告をしました。

濱館町長は、町で水揚げされた津軽海峡メバルを加工した粉末と、地元産のうるち米が使われていることを三村知事へ紹介しました。三村知事は、しお味としょうゆ味のメバルせんべいを試食し、「口に入った瞬間にメバルの風味がする。食感もいい。特にしょうゆ味が抜群の完成度」と感想を話しました。報道陣も多くかけつけ、注目度の高さがうかがえました。

メバルせんべいは、しお味としょうゆ味の2種類あり、中泊メバル膳提供5店舗で販売中です。今後は、さらに販売店を増やしていきます。価格は1箱10枚入りで880円(税別)です。

### 【問合せ先】

中泊メバル料理推進協議会 (役場水産商工観光課内)

☎57-2111(代表) 内線1612



「メバせん！」完成を三村知事へ報告

第3弾となった「中泊はメバ焼き！」は、中里高校と連携して開発されました。同校のSBP(ソーシャルビジネスプロジェクト)で、高校生が地域の課題などにビジネスの手法で取り組む事業の一環で始まりました。これまでに、19,587個を売りあげました(10月末現在)。同校ではメバ焼きのほかに、メバルねぶたを製作体験しました。メバルねぶたは、青森ねぶた祭や町内のイベントを大いに盛り上げました。



メバルねぶた



今年6月に、来場者が料理を食べて投票する「中泊メバル料理グランプリ2018」が開催され、約2000人が来場しました。用意されたメバル料理10品の各ブースには行列が絶えず、完売続出の盛況ぶりでした。受賞した料理は期間限定で店舗販売されました。グランプリの「中泊メバルの煮ごりワンタンラーメン」は、「くつるぎダイニング哲。」で、夜間に数量限定でメニュー化されているほか、町内各イベントでも提供されています。

## メバルでまちおこしを、もっと! メバルフォーラム2018開催

メバルせんべいの発売を記念して、10月25日(木)に町総合文化センター「パルナス」で、メバルフォーラム2018が開催されました。はじめに、メバルでまちおこしを始めてからの3年間を映像で振り返りました。続いて、中泊メバル膳をプロデュースしたヒロ中田さんが、「メバルでまちおこし!次なる一手」と題した講演で、自身がこれまで手掛けた事例を交え、“ご当地”の可能性や「メバルでまちおこし」の今後について話しました。

パネルディスカッションでは、メバル膳ができるまでの思いやこれまでの取り組み、今後の「メバルでまちおこし」や中泊町の将来の姿などを討論しました。ヒロ中田さんは、「メバルコンテンツを楽しんで作り続けて欲しい」と話し、ディスカッションを締めくくりました。

〈パネルディスカッション登壇者〉

コーディネーター：エフエム青森 境香織

パネリスト：濱館豊光 町長、ヒロ中田さん、中畑哲也 中泊メバル料理推進協議会会長

成田直人 小泊漁協組合長、ベイビー畑井さん(平内ホタテ料理推進協議会事務局長)



# 人生100年時代！

100歳体操で心も体も健康に

10月11日(木)に町総合文化センター「パルナス」で交流会が開催されました。住民主体の通いの場として、地域で健康づくり・介護予防に取り組む「百歳体操」。町内では、深郷田、下豊岡、富野、小泊、下前、五林の6地区で百歳体操を実施しています。交流会では、県作業療法士会の平川裕一さんが、体操の必要性やその効果について講演しました。続いて地区ごとに、活動内容を報告し合いました。最後は全員で、百歳体操をし、汗を流しました。富野地区代表の坂本チツ子さんは「体も心も健康な100歳を迎えることを目指して、たくさんの方が集まったことは素晴らしい」と話しました。下前地区代表の成田つり子さんは「百歳体操が広まり、健康寿命をのばし、地域の活気につながれば」と今後の活動への意気込みを話しました。



講師の平川さん



みんなで100歳体操

## ご長寿の秘訣は……？

100歳顕彰が3人

このひと月のあいだに、100歳の顕彰を受けた方が3人いらっしゃいます。この3人には、100歳長寿のお祝いとして、濱館町長から顕彰状と祝い金が手渡されました。高齢者に敬意を表するほか、生きがいとなるようにと、町から100歳顕彰が行われています。今回顕彰された3人を含めると、町内で12人がご存命でいらっしゃいます。

### 中村シヨさん



9月29日(土)に100歳の誕生日を迎えました。ご家族によると、若い頃から手先が器用で、編み物が趣味だったそうです。現在は、特別養護老人ホーム青山荘に入所し、ほかの入所者と一緒の食事や、施設内の温泉に入ることが日々の楽しみだそうです。中村さんは顕彰状を受け取ると「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えていました。プリンが好きだそうです。毎日食べているそうです。

### 前田 行<sup>ゆき</sup>さん



10月15日(月)に100歳の誕生日を迎え、ご家族がお祝いをしました。実は、前田さんの祖母が102歳まで長生きし、当時の総理大臣から表彰されていました。前田さん自身も100歳まで生きることを目標に、50歳になる前からそのことをご家族によく話していたそうです。歴史と読書が好きで、孫に教科書を持ってくるようにと言ったこともあったそうです。現在は介護老人保健施設サンライフかなぎに入所していて、食事は自力で食べているそうです。

### 松谷キヨエさん



10月25日(木)に100歳になりました。相撲中継を見ることが好きで、地元力士の宝富士と阿武咲が映ると、元気に応援しているそうです。

現在は、特別養護老人ホーム静和園に入所しています。ご家族が来ると「来たな」と声を掛け、おやつを食べ終わると「ごちそうさま」と声かけをしっかりとるそうです。

# バルーンアートに夢と希望を込めて

中里高校は、「夢を目指す職業講話2～バルーンアートをなりわい生業に～」と題した講演会を10月19日(金)に開催しました。講師は、好きなことを仕事として、県内各地で活躍する「ふうせんや さとら」の北澤 由美子代表です。北澤さんは20年ほど前に「車力村読書サークル」を立ち上げ、その活動で悩んだときにバルーンアートと出会い、魅了されたそうです。バルーンアートを通じ、コミュニケーションの大切さを実感したことがきっかけとなり、バルーンアートを独学で学び、バルーンアーティストの世界公認資格を取得しました。資格や技術取得のほかに、どんな意識でバルーンアートの仕事に取り組み、何を大切にしているのかといった北澤さんの話を、生徒たちは真剣な眼差しで聞いていました。

中里高校で第2回職業講話を実施



講話のあとは、中里高校初の地域連携企画として、中里小学校の児童たちとバルーンアート制作体験をしました。北澤さんが、バルーンアートの魅力や思いを中高生へ伝えたように、今度は中高生が中里小児童をリードしながら、バルーンアートを作り上げました。制作したバルーンアートは、中里高校の文化祭「中高祭」の飾り付けに使われました。



10月20日(土)の中高祭当日は、ステージ発表で幕が上がりました。1人ひとり役割があるだけでなく、先生方を巻き込んだ中里高校ならではのステージ発表で、来校者を楽しませていました。展示コーナーでは、日ごとの活動の成果がずらりと並んでいました。廊下には、前日の職業講話で制作体験したバルーンアートが飾られ、生徒と児童の協働が中高祭を彩りました。そのほか、生徒が味付けを監修した豚汁やカレーなどが提供され、魅力あふれるブースが並びました。中里高校SBPはメバ焼き！を販売し、注目を集めていました。

